

ちーの山暮らし物語

田人地区 地域おこし協力隊

7月号



在来種とは、その地域の環境で生まれたものです。ここはこの風が吹いています。ここはこの水が流れています。在来種野菜の色や味、形や姿も、その場所の風土を感じます。

六月に入ると小豆の種まきの時期です。色々な昔小豆の種を地域のCさんからいただきました。土壤微生物環境を壊さない為、耕さないで、直接メジャーを張って、細い溝を掘つてむすめましたか、ダニマメ、白小豆を四列ずつまきました。鳥に食べられないよう、ネットを張りました。

「むすめましたか」は東北地方の在来種であり、いわき

天気がまだ薄寒で、山と空が澄み通る湛水の田に映ります。明るく懐かしい風が吹いて蝉が鳴き、優しい春から生き生きとする夏を迎えます。

お米の種まきに続き、田植えの研修をしました。田んぼの面積が広いため、Hさんは普通より倍のスピードで田植えをしていました。まるでフェラーリに乗る人よりかっこいいです！Hさんのスピードに追いつく為に、ご家族と一緒に水稻の苗箱を運んで降ろして繰り返しました。

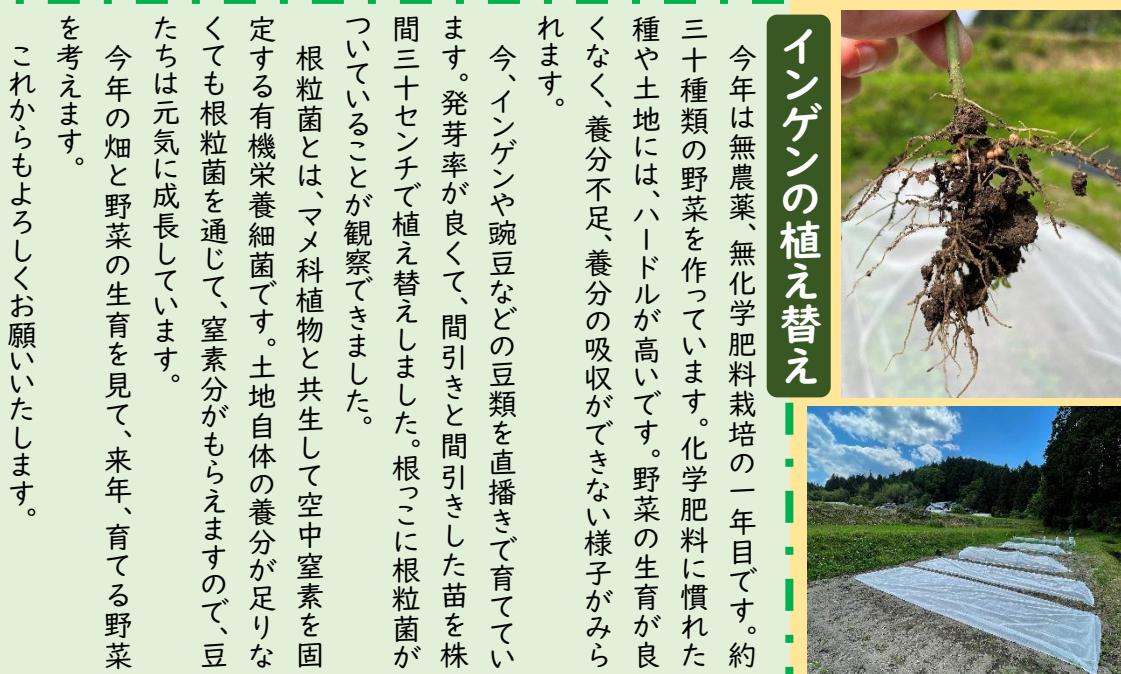
以前、手植えの経験はありますか、大きな田植え機に乗ったことがありません。その機械の操作を習得する為に、Hさんの指導をいただき、田植え機を運転してみました。田んぼは平らではないので、真っ直ぐに走るのに苦戦しました。また、次の列に入るタイミングが難しいのですが、ハンドル操作の練習を沢山すれば、できるようになります。

今回の田植えも色々と勉強になりました。大感謝です。

田植え



昔小豆の種蒔



インゲンの植え替え

今年は無農薬、無化学肥料栽培の一年目です。約三十種類の野菜を作っています。化学肥料に慣れた種や土地には、ハードルが高いです。野菜の生育が良くなく、養分不足、養分の吸収ができない様子がみられます。

今、インゲンや豌豆などの豆類を直播で育てています。発芽率が良くて、間引きと間引きした苗を株間三十センチで植え替えました。根っこに根粒菌がついていることが観察できました。

根粒菌とは、マメ科植物と共生して空中窒素を固定する有機栄養細菌です。土地自体の養分が足りなくても根粒菌を通じて、窒素分がもらえますので、豆たちは元気に成長しています。

今年の畑と野菜の生育を見て、来年、育てる野菜を考えます。

これからもよろしくお願ひいたします。

